

ゼミ室での TeX 環境

TeX の基本

0. ファイル保存場所としてあらかじめ自分専用のフォルダを作成しておく。
1. エディタで tex ファイルを作成する。ファイル名は半角英数字としておく。以下ではファイル名を `sample.tex` とする。
パソコンには `xyzzzy` というエディタがインストールされているのでそれを使えばよい。起動時には空白の画面が表示されるが、とりあえず、「ファイル」メニューから「名前をつけて保存」を選んで、上で作成したフォルダに保存する。
2. tex ファイルから dvi ファイルを作成する。
`xyzzzy` のメニューに「ツール」があるので、それをクリックして「NTプロンプト」を選択すると、コマンドプロンプトの黒いウィンドウが現れる。プロンプト（入力を要求しているカーソルのある場所）で、`platex sample` などと入力すればよい。
3. 無事 `sample.dvi` (例の場合) が出来たら、それをプレビューアで眺める。
パソコンには `Dviout` というソフトがインストールされているので、コマンドプロンプトで、`dviout sample` と実行すれば起動する。

上の作業は何度も繰り返すので、各ステップ終了時に、ソフトウェアを終了しない。2ラウンド目からは、新しくソフトを起動し直すのではなく、作業中は、「エディタ」「コマンドプロンプト」「プレビューア」の3つのウィンドウが開かれていて、常に一部が見えるようにしておく。つまり、ソフトを全画面表示で使うと他のウィンドウが見えなくなるので、適切な大きさ・位置に配置する。`dvi` ファイルを作り直した場合、一部隠れていた `Dviout` のウィンドウを表に出すと、自動的に新しくなったファイルが表示される。

2ラウンド目の手順を示す。

4. プレビューで確認後再編集が必要ならば、エディタのウィンドウを上に出す（エディタのウィンドウをクリックすればよい）。必要な編集作業を行い、上書き保存する。
5. コマンドプロンプトのウィンドウをクリックして上に出し、上矢印を1回押すと、先ほど入力した `dviout sample` が表示される。もう一度上矢印を押すとその前に入力した `platex sample` などが表示されるので、そのままエンターキーを押すと、そのコマンドが実行される。
6. 新しく `dvi` ファイルが作成されたら、`Dviout` のウィンドウをクリックして、新しい内容を表示させる。

実際にどのようなファイルを作成するのかについては、テキストを参照すること。